令和五年　師走　755号

# むなかた

目次


新しい年に向けて　2
古式祭・鎮火祭・厄年一覧表　3
宗像国際環境会議　4・5
天野浩教授参拝　5
神宝館だより・みこころ　6
宗像大社歌会詠草　7
御造営奉賛者御芳名　7


よって。当社は、沖ノ島の沖津宮、大島の中津宮、本土に鎮座する辺津宮の三宮から成り立っている。三宮それぞれに特徴があり神職は得難い経験を日々積ませて頂いている。普段神職の多くは辺津宮で奉仕しているが、他に年二回から三回順番が回ってくる十一日間の沖津宮奉仕、数十年に亘る奉職期間中に一度は経験する二年間の中津宮奉仕がある▼四月から中津宮に赴任したが、日々の社務に追われ、あっという間に師走を迎えた。世界遺産登録やSNS等の影響で近年は来島者も増えており、特に土日は参拝者も多く、守札授与、御朱印書きでドタバタしている▼中津宮の職員数は神職含め三名であり、事あるごとに氏子の皆さんの協力を得て、お宮の運営を行っており、「村の鎮守様」という趣である。数多くある祭典には、多くの海山の旬の幸が献上され、島の豊かな恵みを感じることが出来る▼大島でも過疎化高齢化が進んでおり昭和三十年代に二千人いた人口は今では五百五十名ほどとなっている。若者の流出も進んでいる▼人口減少が神社の将来に与える影響を危惧する。（松）

# 令和六年 甲辰 ―きのえたつ―
# 新しい年に向けて

伊勢の神宮においては、全国の神社関係者参列のもと九月十七日に大麻暦頒布始祭が斎行された。

神宮のお神札は「神宮大麻」と呼ばれ、大麻とは「おおぬさ」とも読み、お祓いに用いる祭具を意味する。明治時代までは「御師」と呼ばれる人々が、全国各地の崇敬者の家々に赴き御祈祷を行い、その「しるし」としてお神札を頒布していた。

明治時代になるとその制度は廃止され、全国に大麻が届けられなくなった。その後明治五年、明治天皇の思召しにより、伊勢の神宮が直接奉製して神宮大麻の全国頒布が始まった。神宮大麻は節目ごとに様々な祭典を重ねて、皇室の弥栄、国家の安泰、各家庭の平安を祈りつつ一体一体丁重に奉製されている。

福岡県神社庁では、九月二十六日に神宮大麻暦頒布始祭が斎行され、福岡県内の各地域支部へと新しい神宮大麻と暦が配分され、十月十一日に宗像支部の神宮大麻頒布始祭が当社祈願殿において斎行された。

そして当社では、十一月二十日午前十一時、宗像大社氏子会総代会約一〇〇名参列のもと、宗像大社神符頒布始祭が斎行された。これにより、新年に向けた新たなお神札（神宮大麻と宗像大社神符）の頒布が始まる。

宗像大社は、九州で唯一の「神郡」を持つことが許されていたこともあり、氏子区域の範囲は宗像市・福津市を中心にその周辺に及ぶ。以降、地域の総氏神として崇敬を受けてきた。その御神縁から毎年、宗像市・福津市の氏子崇敬者の方々にお神札を頒布している。

新しき年を迎えるにあたり、新しい神宮大麻と共に、地域をお守り下さる氏神様のお神札を一緒にお祀りし、一年の家庭の安寧と幸せをお祈りしましょう。

■神宮大麻や御礼のおまつりについて
jinjahoncho.or.jp
（神社本庁ホームページ）

福岡県神社庁宗像支部大麻暦頒布始祭（当社祈願殿にて）

# 古式祭・鎮火祭　斎行

## 古式祭　―こしきさい―

十二月十七日午前六時より古式祭が斎行される。古式祭とは、当社を代表する特殊神事で、その年に収穫されたものや、みかんの原種である「九年母（くねんぼ）」や宗像市江口の浜で採れた海藻の「ゲバサモ」などの特殊神饌を神前にお供えし、祭典を行う。その後、神様と同じ食事を頂く御座（宮座）がある。

この神事は室町時代、一條兼良が編纂した『公事根源』に起源を見ることができる。江戸時代には十一月十五日に行われ、宗像祭と呼ばれていた。明治維新の際「民例祭」となるも明治四十四年、祭日を十二月十五日とし名称も「古式祭」となった。終戦前後、食料統制の為に中断をするが、昭和二十五年から氏子の方々により御座が復活する。

古式祭の特徴は「特殊神饌」と神人和楽の時を過ごす「御座」にあると言える。秋の新嘗祭に引き続き、八百年間続く「田島の新嘗祭」といえる古式祭は地元氏子奉仕によるきわめて珍しい神事といえる。

### 古式祭御座（おざ）　ご案内

- 祭典（本　殿）　午前六時
- 御座（儀式殿）　受付　午前五時三十分
  御座　午前六時三十分
  （一番座＝三十二名ずつ、最大六番座まで）
- 御座料　一人…二、〇〇〇円

## 鎮火祭　―ちんかさい―

古式祭終了後、午前十時より鎮火祭が斎行される。この神事は火神の荒びを鎮め、その災禍を受けることのないように祈る神事である。神話では火神の荒びを水神が「ひさご」、埴山姫神が「川菜」を以って鎮めたとある。祭典においても宮司以下二名の神職がその神話に則り、火打石で忌火を起こし、「ひさご」で水を注ぎ、次に「赤土」「川菜」で覆う鎮火の儀が行われる。

祭典には宗像福津の消防、防災の関係者らが参列し、年末年始の乾季、火の気が起こりやすい時期の平穏を祈る。

## 令和6年　厄年一覧表

| 生まれ年 | 厄年 | 年齢（数え） | 生まれ年 | 厄年 | 年齢（数え） |
|---|---|---|---|---|---|
| 大正7年 | 暗剣殺 | 107 | 昭和58年 | 大厄（男） | 42 |
| 大正14年 | 八方塞 | 100 | 昭和59年 | 前厄（男） | 41 |
| 昭和2年 | 暗剣殺 | 98 | 昭和62年 | 後厄（女） | 38 |
| 昭和9年 | 八方塞 | 91 | 昭和63年 | 大厄（女）八方塞 | 37 |
| 昭和11年 | 暗剣殺 | 89 | 平成元年 | 前厄（女） | 36 |
| 昭和18年 | 八方塞 | 82 | 平成2年 | 暗剣殺 | 35 |
| 昭和20年 | 暗剣殺 | 80 | 平成3年 | 後厄（女） | 34 |
| 昭和27年 | 八方塞 | 73 | 平成4年 | 大厄（女） | 33 |
| 昭和29年 | 暗剣殺 | 71 | 平成5年 | 前厄（女） | 32 |
| 昭和36年 | 八方塞 | 64 | 平成9年 | 八方塞 | 28 |
| 昭和38年 | 後厄（男女）暗剣殺 | 62 | 平成11年 | 後厄（男）暗剣殺 | 26 |
| 昭和39年 | 大厄（男女） | 61 | 平成12年 | 大厄（男） | 25 |
| 昭和40年 | 前厄（男女） | 60 | 平成13年 | 前厄（男） | 24 |
| 昭和45年 | 八方塞 | 55 | 平成17年 | 後厄（女） | 20 |
| 昭和47年 | 暗剣殺 | 53 | 平成18年 | 大厄（女）八方塞 | 19 |
| 昭和54年 | 八方塞 | 46 | 平成19年 | 前厄（女） | 18 |
| 昭和56年 | 暗剣殺 | 44 | 平成20年 | 暗剣殺 | 17 |
| 昭和57年 | 後厄（男） | 43 | 平成27年 | 八方塞 | 10 |

**厄　年**
人生の節目であるとともに、一生のうちで災難、『厄』にあう恐れが多いため、慎まねばならない年です。特に男性の42歳、女性の33歳は『大厄』とされています。

**八方塞（はっぽうふさがり）**
男女の別なく九星（星回り）にもとづいて災難に遭いやすいとされる年です。

**暗剣殺**
「九星術」でその年の五黄土星と相対する方位で、最も慎まねばならないとされる大凶の年廻りと言われています。

※厄年のお祓いは年始から節分までに行なうのが良いとされています。

# 第十回 宗像国際環境会議

## 常若 生命文明への歩み

十月二十六日から二十八日の三日間に亘り「宗像国際環境会議」が開催された。

十回目の節目となった今年はメインテーマの「常若」に加えて、「生命文明へのあゆみ」と題して、三日間で八つのセッションが展開された。

初日と二日目で、地球環境の現状や、玄界灘における藻場の再生への取組みなど課題解決に向けた様々な活動が紹介、議論された。「地球沸騰化」や「人類史上暑い夏」などの今までに聞くことの無かったキーワードが多く登場した。地球環境問題や地球の七割を占めている海の中の問題は深刻化するばかりであり、その結果、生態系へのダメージや頻発する異常気象に繋がっており、これからの人類の生存に関わってくる場面に入ってきたことは明らかであるとの共通認識に至った。

そのような現状の中、最終日は「物質文明」から「生命文明」へ価値観を転換していき、これから先の私たちのあるべき姿が議論され、締めくくりに「宗像宣言」を採択し幕を閉じた。

クリーン活動

竹漁礁づくり

第十回宗像国際環境会議　宗像宣言

人類史上十二万年間で最も暑い夏となった今年、過去には聞かれなかった「地球沸騰化」という言葉が叫ばれ、かつてないほどの海水温の上昇に見舞われています。

地球の七割を占める海は私たちに恵みを与え続けてくれる存在ですが、その状況は日々深刻化し、生態系に取り返しのつかないダメージを与えています。

海が吸収し蓄積し続けた莫大なエネルギーは、今や気候を暴れさせ、「線状降水帯」の頻発による災害など私たちの暮らしに大きな影響を及ぼしています。

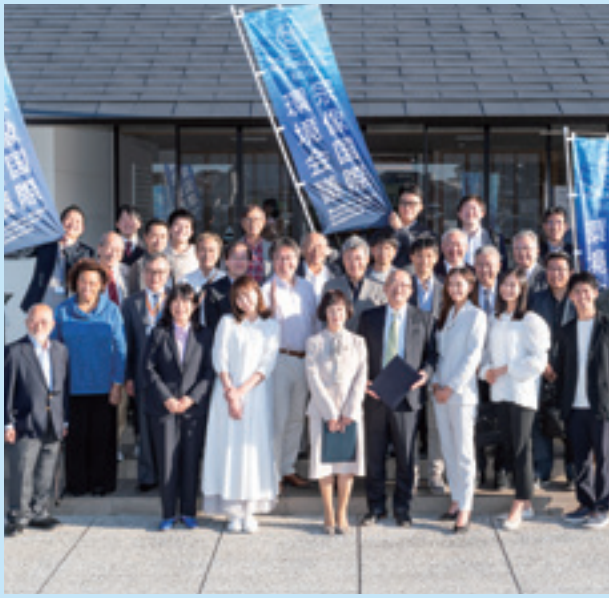
宗像国際環境会議は、国連IPCC議長を迎えた第一回から十年の節目を迎えました。この間、残念ながら危機は加速し、地球の限界が迫っています。科学者たちは、「気候変動は人類の幸福と地球の健康に対する脅威である。この十年間に行う選択や実施する対策は、現在から数千年先まで影響する」と警告しています。今こそ、市民や自治体、企業など多様性に満ちたステークホルダーが共に解決策を出し合い、脱炭素で循環型の社会に向けて転換を加速させていく必要があります。

ここ宗像の地で、私たちは、「常若　生命文明への歩み」をテーマに、“いのち„を中心におく文明に向けた価値観の転換にいま何が必要か、議論を深めてきました。

かつて人々は、自然の摂理を熟知し、自然の歩調に合わせる心をもって生活を営んできました。人は自然の一部です。まずは、自然が本来持っている力を回復させる「ネイチャーポジティブ」に向けて叡智を結集していくことが大切です。

正念場となる次の十年、そして三千年先の未来をも見据えて、決して諦めることなく、イノベーションに挑み、自然と共生する新しい地域創生を目指しましょう。私たちは、現代文明が人類の生存環境を蝕んできたことに気づき、生命を繋いでいくために、行動し続けていくことをここに宣言します。

令和五年十月二十八日　宗像国際環境会議参加者一同



また会議期間中の二十六日と二十七日の夕刻には、多様な文化、価値観を受容し、国際的な視野を持った豊かな人材の育成を目的とした「宗像国際育成プログラム」（塾長：黒田玲子東京大学名誉教授）が開講され、地元の学生たちが聴講した。

三日間のセッションの様子は後日、youtubeにてアーカイブ配信予定。

参拝抄

## 名古屋大学 天野浩教授参拝

十月十二日、東海国立大学機構センター長で名古屋大学教授の天野浩氏が当社を参拝された。天野教授は平成二十六年にノーベル物理学賞を受賞されている。

名古屋大学工学研究科電子工学専攻の天野研究室では新分野で世界を先導する人材の養成を目的に、結晶成長、白色・紫外光・緑色発光ダイオード、レーザダイオード、フォトトランジスタ、太陽電池、電力変換用パワーデバイスに関する研究を行っている。

天野研究室HP

# 神宝館だより 80
## 八万点ノ国宝収蔵

### 能登半島視察記④

気多大社を後にして、視察初日の最後に、日本海に面した海岸高台のきわに築かれた羽咋地域最初の大型古墳、五世紀中頃の滝大塚古墳を見学した。日本海側屈指の規模を誇る帆立貝式古墳で、残念ながら現在大きく削られ、周溝（古墳を囲む掘）や前方部など大半を失っているが全長九〇mと推定されている。南西の海上からの遠望を強く意識した位置にあり、規模・立地・内容から、羽咋地域の日本海沿岸交通を掌握した有力首長級の墳墓と考えられている。古墳から海岸近くへ少し歩いていくと、果てしない日本海と長大な海岸砂丘が広がっていた。羽咋の地理的環境が良く理解できる素晴らしい景色に心が震えた。

宿泊する輪島へ向かう途中、福浦港（羽咋郡志賀町）へも立ち寄った。ここは渤海使の帰国時の出港地だった福浦津の推定地とされる。二つの深い入り江が並ぶ良港で、北前船の寄港地でもある。石造の方位盤（江戸時代末期奉納）や金毘羅神社、国内現存最古の木造洋式灯台（明治九年建造）など現地の文化財は、往時の船乗りたちの賑わいを生き生きと伝えていた。（福）

※参考資料：羽咋市教育委員会作成 現地視察説明資料
大高広和「東アジアにおける関連資産の調査（視察概要）」（2023年、沖ノ島と関連遺産群特別研究事業成果報告書収録）

↑ 滝大塚古墳近くから日本海をのぞむ。海岸線に沿う砂丘の奥が寺家遺跡。

← 旧福浦灯台。石川県の史跡に指定されている。

## みこころ

早いものでもう師走となりましたが、皆様はどのような一年を過ごされましたでしょうか▼私は奉職して二年目となり、新人の頃に培った知識をもって忙しなく日々奉仕して参りました。来年四月には後輩も入社し、より上の立場になるので、気を引き締めて、心新たに新年を気持ちよく迎えたいと思います▼さて、私は最近金木犀のフレーバーにはまっております。ハンドクリームやシャンプー、フレグランスなどつい手に取ってしまいます。家の庭にも咲いておりとてもいい香りに心が安らぎます。季節のものを取り入れた生活をすることで、日々の移ろいをより鮮明に感じ一年の終わりに想いを馳せています。もうすぐお正月となり、多くの参拝者を迎えます。コロナウイルスは落ち着きを見せていますが、ここ最近インフルエンザが流行り始めております。冷え込む日々が続きますが、お体には気をつけて新年を迎えられて下さい。（石）

## 第748回　宗像大社歌会詠草

■大西晶子選　■毎月25日〆切（順不同）

きらいなの金木犀のあの臭い末だに消えぬ亡き姉の声　東　雅子

一般的には良い匂いとされる金木犀の香が苦手だった姉の言葉が印象的で、姉の繊細な人柄が想像される。鍵括弧に姉の言葉を入れると読み易くなる。

運転の夫へ手渡すためらわず口に投げ込む問うこともなく　吉﨑美沙子

なにか食べ物を運転中の夫に渡したら安心して口に入れたのだ。夫との間の信頼関係がよく分かる。二句を〈夫へ渡せば〉とすると調べが滑らかになる。

カナカナカナ孫の名呼びつジジジジ夏の夕焼消えゆきしとき　早川　祥三

お孫さんの名がカナさんなのか、三句は蝉の声と自分を表す「じいじ」を掛けているのだろう。蝉の声の擬音と呼び名をかけた言葉遊びが楽しい。

今日あたりアサギマダラが来さうなり天気良好藤袴満開　佐々木和彦

アサギマダラの飛来を待つ作者。下の句の漢字羅列が効いて結句の字余りもあまり気にならない歯切れのいい一首。

がんになり今生きていると痛感する今日もりんごがとても美味しい　堺　玲子

癌と診断された作者は不安な日々のなかで、自らの命をいとおしんでいるのだ。その気持ちが林檎の味に出ている。

桜島噴煙見ると遠き国ベスビオ火山相い似たるかな　秋吉　嘉範

かつて実際に見たベスピオ火山と噴煙を上げる桜島が似ていることに気が付いた作者。〈桜島の噴煙見るとき遠き地のベスビオ火山と似たるに気づく〉。

上八（コウジョウ）の承福禅寺の和尚さんのお経のC・Dびんびん美声　山﨑　公俊

ラップにありそうな韻のふみ方をした歌。お段で言葉の頭をそろえた四句までが弾むようなリズムを作り、結句の「び」の繰り返しで結ばれ調子がいい。

小雨にぬれ門扉（もんぴ）開ければ暗がりでカエルくん鳴くおかえりなさいと　本田エリナ

出掛けていた作者を出迎えるように鳴く蛙。作者は家族に声を掛けられたような気がしたのだろう。蛙への親しみが「カエルくん」の呼びかたに表れている。

◆選者詠

検診が済みて気づけり朝食を取らざりしわれのすこやかな飢ゑ

あぶらあせ垂らし焼かるるホッケあり悔やめど時はもどらぬものを

## 第718回　俳句

擁かれる白水ダムの夏白し　早川　祥三

## 御造営奉賛者御芳名

（令和五年十月）（順不同・敬称略）

**一〇〇、〇〇〇円**

上天草市　（有）勝栄工業

**一〇、〇〇〇円**

大阪市　谷口商事（株）
滝沢市　熊谷真奈美

**六、〇〇〇円**

筑紫野市　伊藤　友香

**五、五〇〇円**

大野城市　大庭秀太郎

**五、〇〇〇円**

芦屋市　中野　宗彦
越谷市　荻野さやか
横浜市　遠藤真里佳
鎌倉市　森　加奈子
合志市　松林　雅嗣
射水市　藤井　泰紀
上尾市　中川　和徳
盛岡市　木村　友乃
石垣市　（有）HUALANI
川崎市　寺田　大介
川辺郡　曽我部　淳
多摩区　畑野　通
飛騨市　浅岡　里優
豊田市　久木元公昭
北九州市　（株）福栄電設
北九州市　小竹　昭

**三、〇〇〇円**

糸島市　國分　一美
泉南市　島川　君香

**二、〇〇〇円**

川西市　鳥取加代子
太田市　町田美沙子
大田区　吉永あずさ
福岡市　松ケ迫美貴
名古屋市　村上　康代

むなかた
師走（しわす） 第755号

## 12月 まつりごよみ

| | | |
|---|---|---|
| 1日 | 総社月次祭<br>引続き 高宮祭、第二宮第三宮祭<br>宗像護国神社祭 | 午前11時 |
| 15日 | 総社月次祭<br>引続き 高宮祭、第二宮第三宮祭 | 午前11時 |
| 17日 | 古式祭<br>御座<br>鎮火祭 | 午前6時<br>午前6時30分<br>午前10時 |
| 19日 | 松尾神社祭 | 午前11時 |
| 31日 | 大祓式<br>引続き 除夜祭 | 午後3時 |

宗像大社

## 編集後記

日本人がこれから迎える十二月から正月にかけては、様々な宗教に基づく文化が交わる月である。異称の「師走」はお坊さんが仏事で東西に走り回っていることに由来するとされる。二十五日はクリスマス。これはイエス・キリストの降誕を祝う日である。三十一日には、新年を迎える前にお寺では除夜の鐘が鳴り響く▼そして新年を迎えると、家族総出で神社やお寺に初詣に出向き、神様仏様の前で新年の誓いを立てる▼多宗教の文化が生活に根付き、それを毎年当たり前のように行いながら暮らす民族は日本文化の特徴である「寛容性」の現れではないだろうか▼毎年、何かと忙しくなる年の瀬であるが、今年一年の感謝をして、来る新しき年を清々しく迎えたい▼この一年を振り返り神様に伝えたい感謝はありますか。（黒）

2023年12月1日発行(月刊)／宗像大社 〒811―3505 福岡県宗像市田島2331 電話(0940)62―1311(代) https://www.munakata-taisha.or.jp/